

## 日間賀島の海は私たちの手で守りたい

日間賀島漁業協同組合女性部  
部長 鈴木 ふさ子

### 1. 地域の概要

私たちが住む日間賀島は、知多半島の先端に位置する周囲 5 km の離島である。現在の人口は約 2,400 人であるが、島民の約 8 割が何らかのかたちで漁業に関係している、まさに漁業の島である。また、県内でも有数の観光地として旅館や民宿も多く、一年を通して県内はもちろん、県外からも多くの観光客が訪れる風光明媚な場所である。(図 1)

### 2. 漁業の概要

私たちが所属する日間賀島漁業協同組合は、平成 14 年度現在、正組合員数 509 名、年間水揚げ量は約 3,200 トン、水揚げ金額は約 31 億円である。

漁業種類は多種多様であり、愛知県で営まれている漁業のほとんどがあるといっても過言ではない。図 2 に平成 14 年度の漁業種類別漁獲金額の割合を示した。主な漁業種類としては、機船船びき網漁業・潜水器漁業・小型機船底びき網漁業・のり養殖業などが挙げられ、この 4 つの漁業種類で全体の 81% を占めている。

### 3. 研究グループの組織と運営

愛知県内には 20 の漁協女性部があり、総部員数は 2,107 名である。その中でも私たち日間賀島漁協女性部は、昭和 34 年に設立された歴史のある女性部であり、現在 358 名の部員が所属する県下でも最大の組織である。現在は役員 25 名を中心として様々な活動を行っている。

### 4. 研究・実践活動課題選定の動機

海の恵みを生活の糧としている漁業者にとっては、昨今の海の環境変化、特に海の汚染状況は誠に憂慮すべき問題である。また、それに伴って漁業資源も減少している。これらのことは、私たち海とともに生きるものにとって、まさに死活問題となっている。

海の環境や漁業資源の減少が憂慮されるなか、日間賀島では海へ流入する生活雑排水や水産加工排水を浄化するための事業が行われている。この漁業集落排水事業は、平成 8 年度に水産庁から事業認可を受け、平成 9 年度より工事が行われている。この事業は、生活雑排水や水産加工排水を日間賀島の中心部に建設された浄化センター(写真 1)へ集め、処理を行って海へ流す仕組みになっている。この施設は平成 14 年度から一部供用開始しており、平成 16 年度末に事業完了する予定である。

なお、漁業集落排水に伴う汚水マンホールの蓋には、日間賀島の観光 PR のため、日間賀島特産のタコやトラフグをあしらった絵柄が採用されている(図 3)。

このように排水の浄化を行う漁業集落排水事業が、行政によって進められている。一方、私たち女性部にできることを考え、日間賀島の海を私たちの手で守るため、家庭から海を汚さない活動を行うことにした。

## 5. 研究・実践活動の状況及び成果

### <海浜清掃>

海浜清掃は、島婦人会とともに年6回、日間賀島にある二つの海岸の清掃を行っている。一度に400kgのゴミを回収した実績もある。

### <廃油回収>

環境負荷の大きい廃油の回収を年2回、島婦人会と共同で行っている(写真2)。回収の際には廃油中の大きなゴミを除去するため、ストッキングで廃油を濾しながら行っている(写真3)。

### <グリーン購入支援>

グリーン購入の支援としては、家庭排水により海を汚さない活動をより促進することが重要であると考え、海の富栄養化をきたす合成洗剤の使用をやめ、天然油脂からつくられた天然石鹼「わかしお」製品の購入及び使用促進活動を行ってきた。

この活動は平成6年から開始し、今年で10年目に入った。活動は主に、「わかしお」製品のPRや一斉配達である。今年度は7月の第2週に販売促進キャンペーンを実施し、女性部役員が戸別訪問をして注文をとり、注文製品の配達とその他の商品の販売を行った(写真4)。その結果、島の大きなホテルなども、「わかしお」製品を使用するようになった。

愛知県における日間賀島漁協の「わかしお」製品販売金額の推移を図4に示した。日間賀島では「わかしお」製品は以前より漁協の購買で販売されているが、私たちが活動に力を入れ始めた平成7年には200万円を超えたこともあった。ここ数年は130万円前後が販売され、過去5年間の平均額は128万円となっている。

次に、平成14年度における、愛知県の漁協別「わかしお」製品販売割合を、図5に示した。平成14年度の日間賀島漁協の「わかしお」製品販売額は約114万円で、県全体の販売額約318万円に対して36%の割合を占め、県下で最大の販売額を誇っている。なお、第2位漁協の販売額は、37万円で県全体に占める割合は11%となっており、日間賀島漁協とは大きな差がある。これらは私たちの活動の成果であると自負している。

活動当初、「天然石鹼より合成洗剤の方が、きれいに汚れが落ちる。」との固定観念を持っておられる方が多く、活動趣旨が理解されず苦勞したこともあった。しかし、天然石鹼より合成洗剤のほうが海を汚すこと、また、他の漁協女性部が行った調査において、天然石鹼と合成洗剤では汚れの落ち具合は変わらないという報告があることを説明するなど、天然石鹼に対する認識を改めてもらう地道な活動を行った。

## 6. 波及効果

このような活動による成果を知るため、日間賀島の海に対する考え方や家庭での環境負荷低減のための工夫について、アンケート調査を行った。対象者は日間賀島の女性と子供である。

アンケート調査の結果をしてみると、天然石鹼より合成洗剤のほうが海を汚すことを知

っている女性が95%に達した(図6)。

さらに、「家庭内で海を汚さない工夫をしていますか？」との質問に対して回答を行った女性の67%が海を汚さない何らかの工夫を行っていることがわかった。それらは、「食器は油分をふき取ってから洗浄する。」、「合成洗剤の使用を極力減らす。」等、いずれも家庭から出る生活廃水を極力汚さないというものであった。

## 7. 今後の課題や計画と問題点

天然石鹼が合成洗剤より環境負荷が低いことを認識している女性のうち、家庭で天然石鹼を使用しているのは41%にとどまっている(図6)。また、「日間賀島の海が他の海と比べてきれいですか？」との質問に対し、「はい。」と回答したのは、わずか27%の子供たちしかおらず、その中でも「将来的にもきれいだ」と答えたのは7%に過ぎなかった(図7)。

これらのことにより、日間賀島漁協女性部はより一層の奮起が必要と感じている。今以上に「わかしお」製品のPR活動を行って、日間賀島での普及率を高めていきたいと考えている。そして、子供たちにもきれいな日間賀島の海を残せるように頑張りたいと考えている。

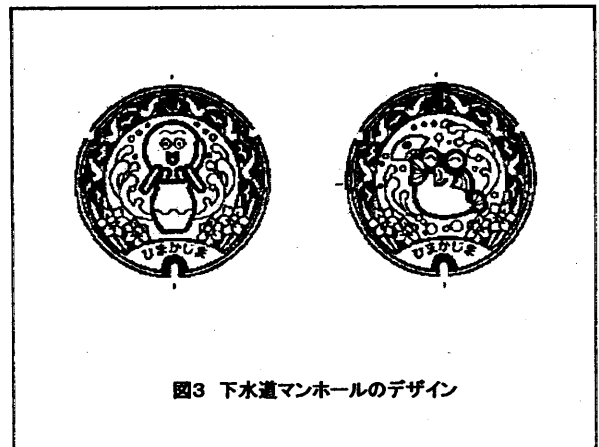
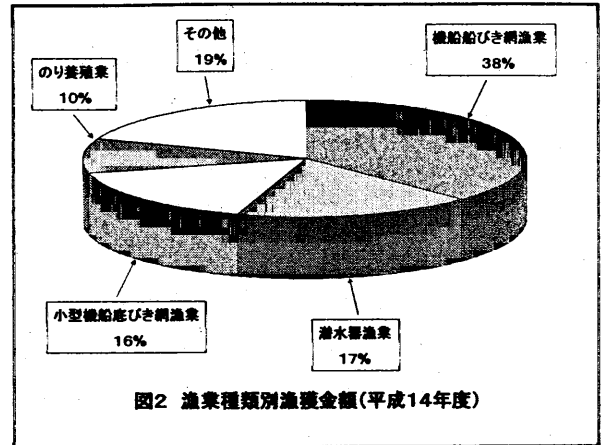
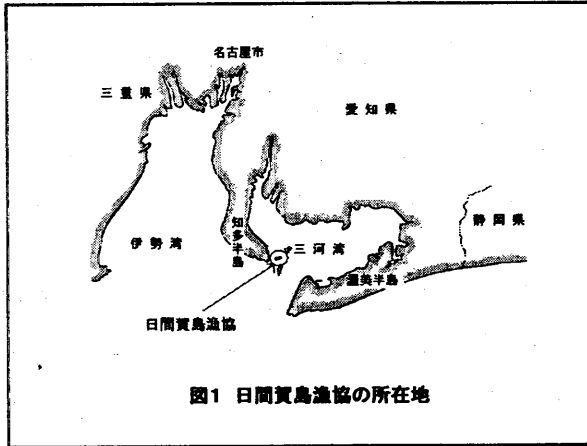




写真2 廃油回収風景



写真3 ストッキングを使用してごみを除去しながらの廃油回収



写真4 「わかしお製品」の一斉配達

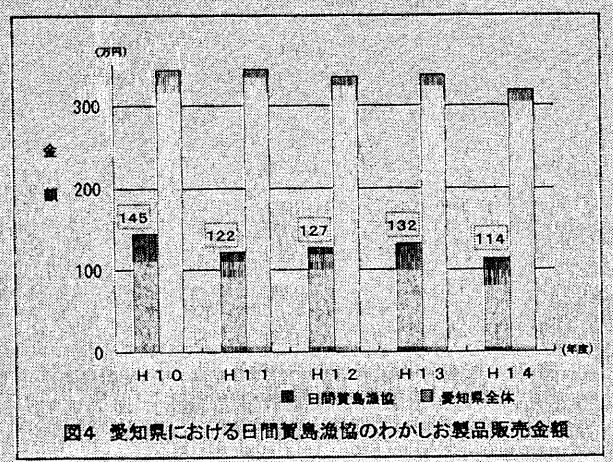


図4 愛知県における日間賀島漁協のわかしお製品販売金額

